

## 日本フンボルト協会 2020年度第3回常務理事会 議事録

日 時：12月19日（土）14時から17時まで

形 態：テレビ会議

出席者：伊藤理事長、縣副理事長、浅田副理事長、西川副理事長(関西支部長)、伏木先生、  
広渡先生、井田先生（関東甲信越支部長）、梶先生、岡林先生、  
坂越先生（中四国支部）、須田先生(東北支部長)、高橋宗五先生、高橋義人先生、  
高橋輝暁先生、高山先生、武内先生(九州支部長代理)、種村先生、鏑田先生、  
和田先生（中部支部長）、関映子（事務局） 20名

### 《議題》

#### (1) ドイツ研究留学説明会（12月5日）の報告

##### 1) 留学説明会担当の鏑田常務理事から以下の報告があった。

- ・参加者数(85名)（申し込み98名、欠席13名）
- ・分科会の参加者  
(人文12名、社会科学13名、理工学26名、生命科学19名、医学15名)。
- ・参加者には概ね満足いただけたようだ。フンボルトの奨学金の内容がよく分かったという感想が増加。一方で、密度の濃いやり取りができず不満の声も聞かれた。

##### 2) 本協会会員の増強について意見交換がなされ、以下の方策を取ることが確認された。

- ・今回の留学説明会で、留学体験者として協力いただいた Humboldtianer の中に、まだ本協会会員になっていない方もいるので、入会を依頼する方策が、改めて議論され、フンボルト財団とも連携して、留学からの帰国者全員が入会する方策を考えることになった。例えば、Humboldtianer に、ドイツ留学中から本協会の活動を広報し、帰国後、自動的に本協会に入会することになっていることを伝え、活動協力をお願いする。

また、フンボルト財団にも、日本人 Humboldtianer に、帰国後、本協会と連絡を取るよう伝えることを依頼する。さらに、大学連絡調整責任者制度を改めて再機能化させる。

#### (2) 第2回オンライン コロナ・シンポジウム（12月12日）の報告

司会の西川副理事長から以下の報告があった。

- ・参加者数(61名)（申込数68名、欠席7名）。科学の共有については概ね達成できたが、参加者の質疑応答の時間がもう少し取れるとなおよかった。
- ・YouTube 掲載について：パネラー（プレゼン）側は了解済み。参加者側の了解を経て YouTube に掲載する方向で調整する。今後も同様に YouTube に掲載する予定。
- ・今後の予定については、審議の結果、次回は人文科学の視点からテーマを設定することになった。作業部会（高橋義人先生、高橋宗五先生、西川先生、岡林先生、理事長、事務局）で、原案（日程（3月初旬～中旬か）、テーマ、運営など）を作成し、常務理事に報告し、了承を得る手順で行うことになった。

#### (3) 来年度の総会について

理事長から来年度総会について説明がなされ、審議の結果、以下の予定で開催されることになった。

- ・2021年6月12日（土）、オンラインで実施。具体的なプログラムについては、次回の常務理事会にて審議する。留学説明会については、新型コロナウイルスの感染状況を注視し、日程や実施方法などを検討する。

(4) 役員改選（2021年6月総会で決定）について

理事長から以下の説明がなされ、了承された。

- ・ 役員改選に向けて調整する（資料3参照）。
- ・ 支部長の交代：九州支部の河野俊行支部長の後任として武内謙治理事が内定。
- ・ 申し合わせとして、75歳以上の役員については自薦を行わないが、協会本部の判断で、役員の継続をお願いする場合もある。

(ご参考) 主な意見：

- ・ 連絡に応答のない役員もあり、再検討の時期。次回の常務理事会に原案を提案したい。理事の数は会員数に比例するのが原則なので、関東の理事はもう少し増やしてもよいのかもしれない。中長期的な視点から、役員数の検討も検討していきたい。
- ・ 任期継続について問い合わせに対し、返答があった場合にのみ継続依頼をする。
- ・ 退任した理事の後任については、世代交代を念頭に検討する。この件については支部長とも相談して進めたい。理事就任依頼の手紙については理事長、事務局に一任頂きたい。

(5) 日独共同研究奨学金について

理事長から以下の説明がなされ了承された。

- ・ 2021年度実施要綱（ドイツ語版）がA v HのHPに掲載されていることを報告(コロナによる特別措置の記載もあり)。
- ・ 申請件数を増やす方策の具体的検討：来日を必須とする要件は今後とも柔軟に対応する。申請者（共同研究の統括者）の下で、複数の研究者が関わる共同研究でもよく、その分担者に奨学金からの支出が可能。DAAD友の会にも本奨学金を周知する。  
例えば、フンボルト協会会員（申請者）+DAAD友の会会員+ドイツ人若手研究者という共同研究も可能である。
- ・ 2019年度の奨学金使用報告書2件について報告された。  
田中 楨会員（慶應義塾大学）  
赤木剛朗会員（東北大学）

(ご参考) 主な意見：

- ・ コロナ特別措置では、ドイツ人研究者が来日できなくなった場合、遠隔会議でもよいとなっている。ワクチンなどでコロナが終息したとたん杓子定規に来日必須の要件を復活させるのではない対応もあり得るのであれば、申請を勧めやすい。

(6) 日独共同研究奨学金基金と財政安定化基金の会計について

基金担当の縣副理事長から資料に基づき以下の報告がなされ、了承された。

- ・ 奨学金基金と安定化基金の現在残高を確認。
- ・ 支出については、奨学金基金については2019年度、2020年度必要な額を支出。安定化基金については未使用。

(7) 会計について

会計担当の高橋宗五常務理事から、資料に基づき2020年度会計収支の経過報告がなされ、了承された。

- ・ 年会費納入状況について478口(会員1447名のうち) 33%の支払い率となる。  
(予算では600名を想定)
- ・ 寄附口座の入金報告 28人より294,797円の寄附が寄せられ、大口(10万円)の寄附(1名)があった。
- ・ 会費未納者には、メールでデジタルクリスマスカード送付の際に年会費未納の件をお知らせし、振り込みをお願いする。納入者には、デジタルクリスマスカードのみを送付する。

(ご参考) 主な意見：

- ・ これまで、年会費は総会時に支払っていた人も多かったが、今年度は、総会がオンラインで行われたため、払ったかどうか分からない人がいるのではないか。そこで、会費督促の連絡をしてはどうか。
- ・ (理事長) 年末に会費督促をする。クリスマスカードを送る際にそれを追加してはどうか。

(8) その他

- ・ 協会ロゴについては、引き続き検討中。次回に提案予定。良い案があればお知らせ頂きたい。
- ・ フンボルト財団のコロナ対策についての情報は、日本フンボルト協会のHPにも掲載済み。
- ・ 次回の常務理事会の日程：2021年3月27日(土) 14時よりオンライン開催予定

(ご参考) 詳細な議論は以下：

- ・ DAAD 奨学金ではコロナ禍でも応募者が増加した。フンボルト財団でも応募者が増加しているのかどうか尋ねてみたい。
- ・ 第2回のコロナシンポジウムではケルン日本文化会館からの参加があった。ドイツの状況を今後、報告頂くことも検討したい。

(以上)